

## 22 医療社会福祉部



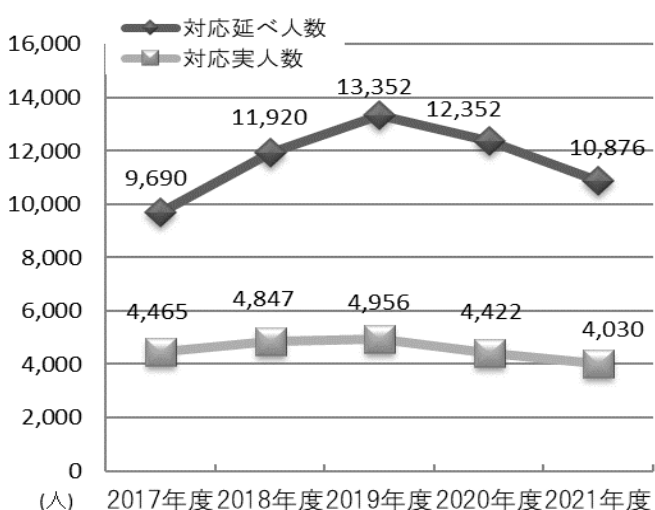
医療社会福祉部には、社会福祉士と精神保健福祉士の資格をもつソーシャルワーカー10名が在籍し、患者さんが抱える療養中の様々な課題への援助を行なっている。また、がん相談支援センターや認知症疾患医療センターにソーシャルワーカー各1名を配置し、専門の相談業務を実施している。

援助内容は、転院や在宅サービス調整などの退院支援、訪問診療や緩和ケア病院等の受診・受療援助のほか、経済的問題、育児・介護や家族関係に関わる支援、就学・就労等の社会復帰支援など多岐にわたる。援助内容の構成比率は2020年度とほぼ変わらないが（22-2）、2021年度の相談内容の特徴として、新型コロナウイルス感染症の影響による失業や経済面に関する相談が増えた点があげられる。

対応実人数・延べ人数は、ともに、2020年度も2019年度より減少傾向だったが、2021年度はさらに減少している（22-1）。これは、新型コロナウイルス感染症により新規依頼が減少したことや、感染対策による面会制限で患者さん・家族との面接時間や頻度が短縮・減少したことによると思われる。退院支援件数の多い救命救急センターでは、対応延べ人数が2019年度2,190人、2020年度1,044人、2021年度930人と大幅に減少しており、脳神経外科も、2020年度は3,357人だったが、2021年度は2,883人と減少している（22-3）。これらは、院内外含む新型コロナウイルス感染症による診療体制の変化等で転院調整依頼の減少や、転院までに時間を要する状況があったことなどが要因と考えられる。

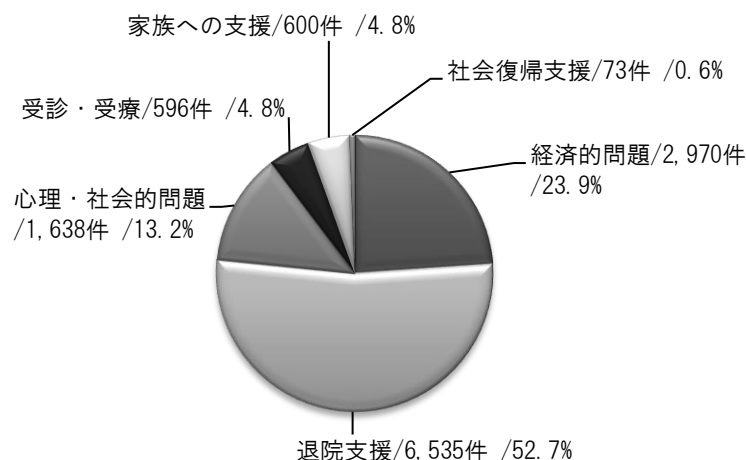
また、2021年度は、高齢者・障害者・配偶者暴力の院内の体制構築に取り組んだ。今後も、社会情勢に応じ幅広く対応できるよう支援の質の向上を目指し、他職種・他機関と協働しながら、相談支援・退院支援体制を強化することで、患者さんが安心して医療を受けられるよう努めていきたい。

22-1 対応人数の年度別推移



(入) 2017年度2018年度2019年度2020年度2021年度

22-2 2021年度援助内容の構成比率(合計12,412件/対応述べ件数)



22-3 2021年度 診療科別・対応延べ人数

区	分	件数	構成比率 (%)	区	分	件数	構成比率 (%)
循環器内科		725	6.7	乳腺・内分泌外科		131	1.2
血液内科		978	9.0	心臓血管外科		235	2.2
アレルギー・リウマチ内科		76	0.7	呼吸器外科		365	3.4
糖尿病・内分泌・代謝内科		16	0.1	整形外科		62	0.6
肝・胆・膵内科		81	0.7	形成外科		27	0.2
消化管内科		199	1.8	脳神経外科		2,883	26.5
炎症性腸疾患内科		190	1.7	皮膚科		12	0.1
呼吸器内科		331	3.0	泌尿器科		138	1.3
脳神経内科		393	3.6	産科婦人科		425	3.9
腎・透析内科		121	1.1	眼科		96	0.9
小児科 / NICU		746	6.9	耳鼻咽喉科・頭頸部外科		511	4.7
肝・胆・膵外科		5	0.05	放射線科		1	0.01
小児外科		19	0.2	歯科口腔外科		139	1.3
上部消化管外科		11	0.1	救命救急センター		930	8.6
下部消化管外科		779	7.2	精神科神経科		13	0.1
炎症性腸疾患外科		187	1.7	その他		51	0.5
				合計		10,876	100.0